

令和元年6月19日現在

機関番号：34313

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02380

研究課題名(和文) 『竹取物語』奈良絵本・絵巻の基盤的研究

研究課題名(英文) Fundamental research of nara-e style and picture scroll tale of taketori

研究代表者

曽根 誠一 (SONE, SEIICHI)

花園大学・文学部・教授

研究者番号：20187892

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：『竹取物語』の奈良絵本・絵巻の伝本について、絵巻18伝本、奈良絵本18伝本の合計36伝本の調査を実施し、図絵の入手と物語本文の確認を行った。その結果、東北大学狩野文庫本奈良絵本中巻の錯簡を解明し、同一の下絵に基づく5伝本の絵巻の図絵について比較検討して、下絵の原図を確定するとともに、絵師の自由裁量の範囲を確認した。また、図絵と物語本文とが齟齬する事例を通して、図絵の世界では、本来の当事者の姿に置き換えて描いたり、当事者を追加して描く独自の描出方法があることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『竹取物語』の奈良絵本・絵巻の伝本は、現在、絵巻31伝本、奈良絵本38伝本、画帖・屏風等14伝本の合計83伝本が知られるが、一部閲覧が困難な伝本もあることを勘案すると、36伝本の図絵を入手できたことは、全体の半分程が入手できたことになる。この伝本数は十分とはいえ、調査の継続が不可欠だが、『竹取物語』の図絵の構図について、比較検討することで、場面毎の類型性と独自性を解明し、図絵と物語本文との関連を議論してゆくための基盤の基礎は整えることができたと考えている。

研究成果の概要(英文)：I conducted a survey of a total of 36 manuscripts of the 18 Nara-e styles and 18 picture scrolls of the tale of TAKETORI, obtained pictorial pictures, and confirmed the text. As a result I elucidate the complex of Tohoku University Kano collection book Nara-e style middle volume, and the original sketch of the sketch was determined by comparing the picture sketches of the 5 picture scrolls drawn based on the same sketch, and the range where the painter could freely draw was confirmed. Also I consider an example where the picture and the text contradict each other, convert it into the figure of the person who should be originally and draw it or that there is a unique method of the picture to draw by adding the figure of the original person I clarified.

研究分野：人文学/日本文学

キーワード：竹取物語 奈良絵本・絵巻 図絵と本文の齟齬 図絵の描出方法

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1)『竹取物語』の奈良絵本・絵巻の研究は、伝本が貴重書に指定され、閲覧が制限されることから調査が進捗せず、近年漸く所蔵機関のホームページで公開されたり、複製本が公開されるようになって、研究環境が整い始めたが、まだ少数に留まっていた。

(2) 図絵の構図を比較した先行研究としては、「国学院大学図書館蔵『竹取物語絵巻』(三本)構図対照」(物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究、平成20年度科学研究費成果報告書、平成21年3月)が嚆矢であり、国学院大学所蔵の武田本・ハイド本・小絵巻本の3本を基盤に据えて、国会図書館本絵巻・諏訪市博物館本絵巻・立教大学本絵巻・元禄五年絵入版本の4本を加えて、7本の比較・検討している。また、上原作和氏等編「『竹取物語絵巻』場面・構図比較一覧表」(かぐや姫と絵巻の世界 一冊で読む竹取物語、2012年)では、更に、九曜文庫本絵巻・テスター・ピーティ・ライブラリイ J1125 本絵巻・龍谷大学本奈良絵本の3本を加えて、11伝本について比較しているに過ぎない。

奈良絵本・絵巻の伝本の情報の網羅的な一覧は、拙稿「『竹取物語』奈良絵本・絵巻の伝本」(花園大学文学部研究紀要、48号、2016)が初めての試みであり、絵巻30伝本、奈良絵本35伝本の存在が確認された時、上記11本による図絵の構図の比較が十分とはいえないことは、明瞭であり、これに基づいた伝本の図絵の網羅的な調査が不可欠の研究状況であった。

### 2. 研究の目的

『竹取物語』の奈良絵本・絵巻の伝本は、絵巻が30伝本、奈良絵本が35伝本、画帖・屏風等が7伝本の72伝本が確認された。これらの伝本の内、所蔵機関のホームページでの公開や複製本が出版されているのは、17伝本に留まっていた。そこで未紹介の伝本の調査を実施するとともに、ホームページで公開されている伝本についても、図絵のカラー複写を入手して、物語の場面毎の図絵の構図の類型性と独自性を解明するとともに、図絵と物語本文との連関を確認し、物語本文と齟齬する若干の事例が何故生じたのか。その原因を解明することを通して、図絵独自の方法・論理を解明することを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1)『竹取物語』の奈良絵本・絵巻の図絵の入手は、毎年、伝本の現地調査をする5伝本と、所蔵機関のホームページで公開されている伝本(勤務校図書館を通して入手を依頼)や複製本が刊行されている伝本を合わせた5伝本の、合計10伝本の図絵の構図と書写本文の確認を実施し、3年の研究期間で、30伝本の図絵の構図の入手を目標とした。

(2) 図絵の構図と物語本文とが齟齬する事例である、阿部御主人と唐の商人王慶との対面を描く「唐人と対面する貴公子」図と、帝の命令を受けてかぐや姫の容貌容姿を確認すべく翁邸を訪問した「中臣房子」図が男姿で描かれる図絵とについて、日本美術史の研究成果を踏まえて、物語本文からは乖離するが、その事案の本来の当事者の姿で描く図絵独自の方法の存在を手懸かりとした。

(3)『竹取物語』の奈良絵本・絵巻の伝本調査を実施し、図絵の構図を確認することで、他伝本との一致・類似性・独自性を明らかにし、物語の場面毎の構図の類型性と独自性を解明する。また、書写本文を調査し、拙稿「『竹取物語』奈良絵本・絵巻の本文考 正保三年刊整版本の独自異文を視点とした粗描」(花園大学文学部研究紀要、45号、2013)で指摘した、正保三年整版本系か否かを、校異を取ることで確認する。

### 4. 研究成果

(1) 研究の始発時、『竹取物語』奈良絵本・絵巻の確認できた伝本は、絵巻30伝本、奈良絵本35伝本、画帖・屏風等7伝本の72伝本であったが、インターネット検索等で新出伝本の存在を確認し、現在、絵巻31伝本、奈良絵本38伝本、画帖・屏風等14伝本の83伝本を確認し、11伝本を増補するとともに、現在の所蔵者が判明した伝本に関する補正も果たした。

(2) 図絵と物語本文の現地調査は、絵巻は共立女子大学本・慶応大学斯道文庫本・同屏風本・国学院大学ハイド本・同小絵巻本・真田宝物館本・聖徳大学本・立教大学小嶋本の8伝本、奈良絵本は円福寺本・中京大学本・東北大学狩野文庫本・名古屋大学森本文庫本・花園大学本・立教大学小嶋甲本・同乙本・同丙本・龍谷大学中川文庫本(図絵剥離)・曾根誠一本の10伝本について実施し、18伝本の調査を終了した。

また、所蔵機関のホームページで公開されたり、複製本が出版されている伝本については、絵巻は逸翁美術館本・九州大学本・宮内庁書陵部本・九曜文庫本・国学院大学武田本・国会図書館本・諏訪市博物館本・チェスターライブラリイ J1125 本・東京大学本・日本大学本の10伝本、奈良絵本は九州大学支子文庫本・公文教育研究会本・勝興寺本・成蹊大学本・フェリス学院大学本・龍谷大学本・同中川文庫本・石川透氏断簡の8伝本の図絵と本文を確認し、18伝本の調査を実施した。

この結果、3年間で36伝本の図絵の構図と物語本文の調査を終了した。

(3) 東北大学狩野文庫本の实地調査をして、中巻の錯簡の実態を解明するとともに、図絵の順序が本来は、第7図「火鼠の皮衣焼失」・第6図「御行、美しい邸宅を新築」・第10図「御行、暴風に遭遇」・第8図「麻呂足、燕の子安貝入手を指示」・第9図「転落した麻呂足に、従者駆け寄り」であったことを指摘し、その場面の図絵の構図の象徴的事物を手懸かりにして解読するとともに、マイクロフィルムでは撮影漏れとなっていた下巻11丁裏・12丁表の写真を掲載し、欠落していた下巻第3図「帝の使者翁邸を訪問し、翁と対面」(第13図)を補う論文を発表した。

(4) カラーでの複製が出版されている諏訪市博物館本絵巻と、逸翁美術館本絵巻の図絵が同一の下絵に基づいて描かれていることについては、夙に気付いて、拙論『竹取物語』絵の配列と多義性 逸翁美術館本と諏訪市博物館本の比較を通して』(花園大学日本文学論究、4号、2011年)を発表していたのだが、その後、鉄心斎文庫本も同様であることを知った。その上で、今回の原本の实地調査で、聖徳大学本絵巻と立教大学小嶋本絵巻も、同一の下絵に基づいて描かれていることが判明し、5伝本の図絵を比較することで、元来の下絵に忠実に描かれているのは、長大図3図を含む聖徳大学本であることを解明するとともに、料紙1枚分に縮約した図絵の伝本についても、縮約の過程で何を如何に省略したのかを、具体的に論じて、絵師の裁量で変更できる範囲について明らかにした。また、併せて、依頼を受けた絵師の自由裁量で取捨選択できる図絵の細部の具体的事例についても、比較検討し詳述できたことは、判断の目安を実証的に提示できた点で、今後の研究に資するところがあつたと考えている。

(5) 図絵が同一の下絵で描かれた、逸翁美術館本・諏訪市博物館本・聖徳大学本・立教大学小嶋本・鉄心斎文庫本の5伝本の内、現在所在不明で本文調査ができない鉄心斎文庫本を除く4伝本の物語本文を調査した結果、逸翁美術館本・諏訪市博物館本・立教大学小嶋本のありようと、聖徳大学本の独自性が明らかになった。正保三年整版本に対する、諏訪市博物館本と逸翁美術館本の共通異文は2例、逸翁美術館本と立教大学小嶋本の共通異文は4例、諏訪市博物館本と立教大学小嶋本の共通異文はない。また、正保三年整版本に対する独自異文は、諏訪市博物館本5例(脱字)、逸翁美術館本34例(異同17例、脱字11例、増補6例)、立教大学小嶋本29例(異同11例、脱字14例、増補3例、脱文1例)であり、諏訪市博物館本の誤写の少なさが際立っている。むしろ逸翁美術館本や立教大学小嶋本の30前後の異同の数こそが、一般的なありようなのだといふべきであろう。これに対して、聖徳大学本の物語本文は、奈良絵本・絵巻としては異例といふべきものである。先ず、正保三年整版本の誤写を正しい本文に改める35例があるが、逸翁美術館本・諏訪市博物館本・立教大学小嶋本は皆無である。増補は70例(2字以上28例、1字42例)、異同は29例(2字以上14例、1字15例)、脱字21例(2字以上7例、1字14例)であり、増補と異同の殆どは、本文を理解しやすくするための改変であり、本文書写者独自の判断による所為ではなく、絵巻の享受者に対する配慮に基づく措置のように思われる。他に類例のない事例であり、論文にまとめるに値するものとして注意される。

(6) 図絵と物語本文とが齟齬する事例である、三人目の求婚者・右大臣阿部御主人段の「唐人と対面する貴公子」図については、御主人の従者小野房守が渡唐し、商人の王慶と対面する場面で、房守が冠直衣姿の貴公子として描かれる構図や、房守が帰朝後、御主人邸で火鼠の皮衣を提出する時、来朝していない王慶に置換されたり、王慶とともに描かれる構図の伝本が存在することから、図絵の世界では、それを本来担当すべき当事者の姿で描く独自の描出方法があつたことを解明し、論文に発表した。

(7) また、図絵と物語本文とが齟齬する事例である、帝の使者「中臣房子」図が、男姿で描かれていることに検討を加え、内侍司の典侍である女官房子が男姿で描かれているのは、従来指摘されていた誤読や誤解ではなく、房子は帝の命令による使者、帝の代理であることから、本来の当事者である帝の姿で描かれるべきところを、帝の顔は描かないという日本美術史研究における「黙契」があるために、帝本人の姿を描くことは回避され、その代理として男性官人の姿で描かれたと考えられることをまとめ、論文に発表した。

(8) 今回の『竹取物語』奈良絵本・絵巻36伝本の調査に際しては、物語本文についても正保三年版本との異同を確認した。その結果、名古屋大学森本文庫本(奈良絵本の江戸時代後期の転写本)の本文が、古活字11行乙本の転写本であることが判明した他は、すべて正保三年版本系の本文であることを確認した。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

曾根誠一、東北大学附属図書館蔵狩野文庫本の奈良絵本『竹とり』について 中巻の錯簡等と図絵の解読、花園大学日本文学論究、査読無、9号、2016、1-17

曾根誠一、『竹取物語』「唐人と対面する貴公子」図を読む 奈良絵本・絵巻の図絵と物語  
本文との乖離を通して、文学・語学、査読有、217号、2016、72-84

曾根誠一、『竹取物語』使者「中臣房子」図を読む 物語本文と乖離する「男姿」図の検討、  
藝文研究、査読有、113号第1分冊、2017、1-15

曾根誠一、同一下絵による『竹取物語絵巻』図絵の検討 逸翁美術館本・諏訪市博物館本・  
聖徳大学川並弘昭記念図書館本・立教大学小嶋菜温子氏旧蔵本・鉄心斎文庫本、花園大学  
日本文学論究、査読無、11号、2018、1-28

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：曾根 誠一

ローマ字氏名：SONE SEIICHI

所属研究機関名：花園大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：20187892

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。